



泗水小だより



泗水小学校
学校だより No21
文責 芹川博文
10月6日(金)

学校教育目標 「自ら考え なかまと高め合う 泗水小」

「気付く目」「拾う勇氣」 ～ 地域の中で育つ子どもたち ～

「何か地域に貢献をしたいと思い、始めました。うちの孫たちも、住んでいる場所は違いますが、きっとお世話になっていることと思います。」

上の言葉は、毎朝、交差点に立たれている松岡さんの言葉です。温かく見守られている子どもたちは、本当に幸せだと思いました。



その松岡さんが、「嬉しいことがありました。」と言って次の話をされました。

道に落ちて散らばっていたプラスチックのゴミを、女子児童3人が拾っていたとのこと。「感心ですね。」の言葉の後、言われました。「ゴミを拾うためには、まず『気付く目』が必要。そして、もう一つは『拾う勇氣』。」

確かにその通りだと思いました。泗水小557名の中には、たくさんの「キラリさん」がいます。いつも爽やかな挨拶をする人、廊下にこぼれた牛乳の雫をティッシュで拭く人、休み時間が終わって誰も取りにいなかったグラウンドのボールを取りに行く人・・・

想像すると、その過程に幾つもの葛藤が考えられます。「自分がしなくても」「変に見られはしないだろうか」「時間がない」などなど。そんな「やめたほうが・・・」の声をふり払って実行に移す子どもたち。そんな「気付く目」「動く勇氣」のある泗水小の子どもたちの行動の輪を広げていきたいものです。

「先生、ゴミ拾いました！」 ～ みんなでやれば、なお楽しい ～

大きなビニール袋に入ったゴミを、「はい、校長先生！」と、満足そうにプレゼント？してくれました。どのようにして始まったかは不明ですが、ゴミを拾いながら登校してきたそうです。

「楽しかった」という彼ら。みんなでやれば、なお楽しいことが伝わりました。

ただ、無理はしないでください。あくまでも安全な登校を第一に。



「礼」「おじぎ」の美しさ ～ 世界が認める日本人の礼儀 ～

「なんて美しい光景」「品格に満ちている」
サモア戦後、日本代表の「お辞儀」が大反響
～ ラグビー・ワールド・カップから ～

応援してくれた感謝の気持ちを表す日本選手の礼儀が注目を集め、外国チームの選手も、試合後のお辞儀を始めているという記事を目にしました。



(私自身は、実際の試合は見逃がしたので、次のアルゼンチン戦は、お辞儀も含めて見ようと思っています。)

所は変わって泗水小。先日、教員業務支援員の中原先生が、「感動したことがありました。」と言って以下の話をされました。

横断歩道を渡り終えた児童数名が、振り返ってきれにお辞儀をしてくれたとのこと。「おかげで朝から、とても清々しい気持ちになりました。」との言葉。

W杯のラグビー選手も、横断歩道を渡る泗水小の子どもたちも、「お辞儀」を通して、誰かの心を動かすことでは共通しています。日本文化の素晴らしさと、相手に感謝の気持ちを表すことの大切さを、改めて感じた朝でした。



地域の皆様、大変お世話になりました ～社会福祉体験、赤ペン先生、学校運営協議会～



前期最後の週も、社会福祉体験、赤ペン先生、学校運営協議会と、盛沢山で地域の方々にお世話になりました。社会福祉体験では、私も、手足に重り、視野が狭まるゴーグルを装着しました。介助なしでは階段も上れない怖さを感じ、「実家の父親もこんな感じ、いや、もっと厳しい状態」と実感し、貴重な体験ができました。

明日から、秋休みです。安全に、健康に過ごされ、後期10月12日(木)に、元気一杯の子どもたちに会えるのを楽しみにしています。